

(2)中間処理実績等(平成 18 年 10 月～令和2年7月末)

平成 18 年 10 月から令和 2 年 7 月末までの P C B 廃棄物処理実績は、(表-2)のとおりトランス類が 2,699 台、コンデンサ類が 78,399 台、廃 P C B 等が 2,053 本となっており、近畿 2 府 4 県で登録されている P C B 廃棄物のうち、トランス類 99.0%、コンデンサ類 97.2%、廃 P C B 等では 90.3%が処理されました。

トランス類については、平成 21 年度をピークに台数は減少傾向、重量は平成 20～28 年度は 300t～400t で推移しました。平均重量では平成 20 年度は 1.0t でしたが、平成 28 年度は電鉄会社の 20t クラス 5 台の超大型物の処理が進み平均重量で 4.2t となりました。平成 29 年度は、残存物に 20t を超えるものが少なくなったことにより平均重量は 1.9t となり、平成 30 年度は処理手間物の処理が進んだほか、大型物の処理割合が増えて平均重量は 3.7t となりましたが、令和元年度では 2.4t となり、令和 2 年度は、230kg となっています。

コンデンサ類については、平成 24・25 年度をピークに台数、重量とも減少傾向にあります。平均重量では平成 24 年度は 54.4kg でしたが、掘り起こし活動により登録されるコンデンサ類は 10kg 未満の小型電気機器の割合が多く、平成 30 年度、令和元年度の平均重量は 30kg 程度となり、令和 2 年度は 20kg 程度となっています。

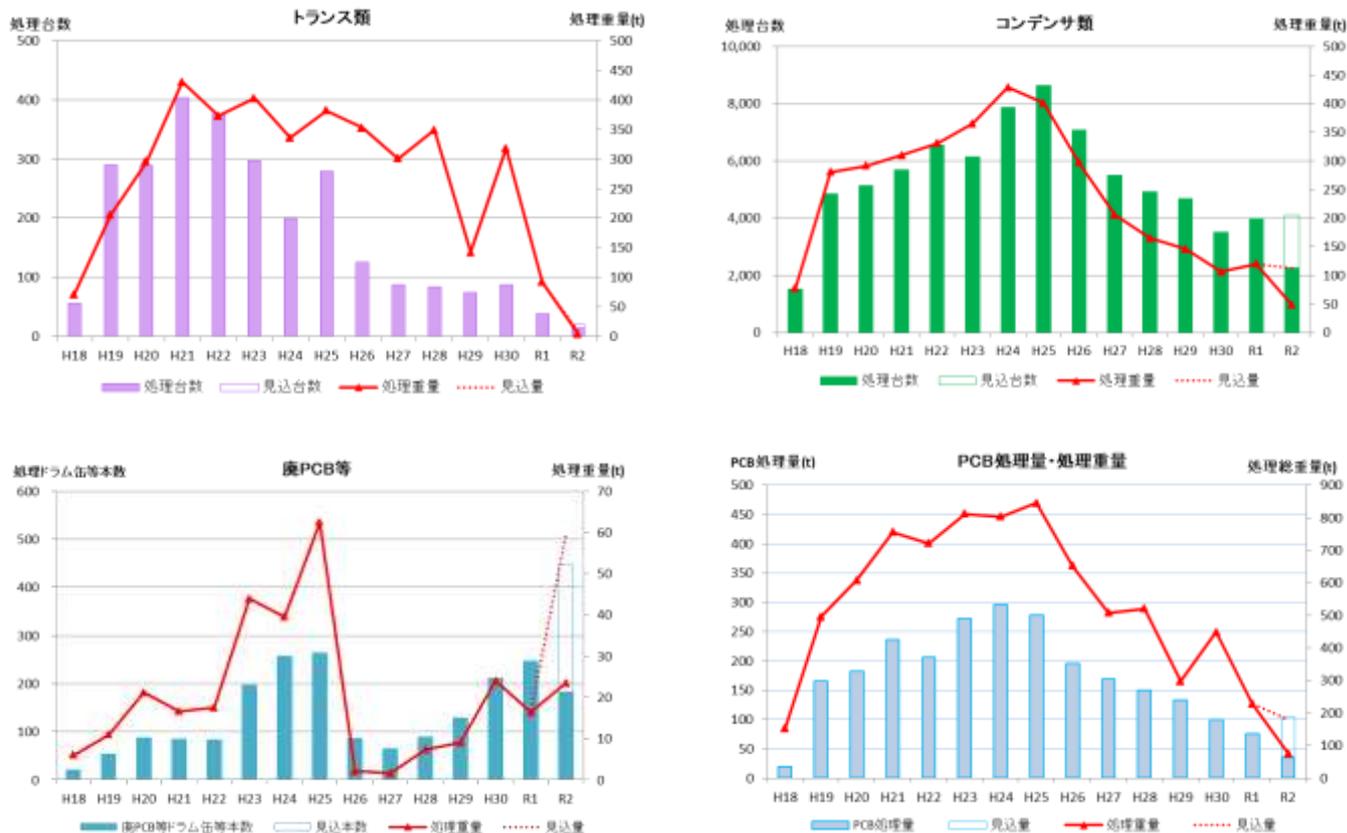
廃 P C B 等については、平成 24 年度、25 年度をピークに本数、重量とも平成 28 年度まで減少しましたが、平成 29 年度から少量保管者の分析残等の処理が増え、平成 30 年度は超大型トランスから抜油した油の処理、令和元年度からは後述(P23)します多量保管事業者の処理を開始したことから本数、重量が変動しています。

全体として、残台数は減ってきており、契約が難航している保管事業者が存在しているほか、処理手間物・困難物等(大型物等搬出困難物：H24 年度着手：14/14 台、コンクリート固化品：H26 年度着手：86/87 台、低引火点成分混入油：H24 年度着手：0/8 本、多量保管事業者：令和元年度着手：138/550 本、P P コンデンサ：3,739 個(平成 27 年度以降は少量保管者のみ))により、搬入までの期間や処理に時間を要している状況です。またコンデンサ類、廃 P C B 等はまた新規登録が続いていますが、処理期限に向けて引き続き安全確実に処理を行い、早期処理を推進してまいります。

表-2 年度別の中間処理完了実績等

種別	年度		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2 7月末	計
	受託処理 (中間処理 D票)	トランス類	処理数(台)	56	290	289	404	376	297	199	279	125	87	84	74	87	38	14
処理重量(t)			70.4	205.0	295.9	429.9	372.6	402.6	335.7	381.7	352.4	300.3	348.9	142.1	317.9	91.8	3.2	4,050.4
コンデンサ類		処理数(台)	1,513	4,862	5,136	5,692	6,557	6,152	7,873	8,636	7,091	5,507	4,931	4,682	3,513	3,981	2,273	78,399
		処理重量(t)	77.0	280.4	291.5	309.8	330.9	364.9	428.5	400.8	297.5	205.7	165.0	146.2	106.7	120.0	48.4	3,573.3
廃PCB等		処理台数等(本)	20	53	87	85	83	197	256	264	86	64	89	129	211	247	182	2,053
		処理重量(t)	6.0	11.0	21.2	16.6	17.5	43.9	39.5	62.4	2.1	1.6	7.3	9.1	24.0	16.4	23.5	302.1
処理重量計(t)		153.4	496.4	608.6	756.3	721.0	811.4	803.7	844.9	652.0	507.6	521.2	297.4	448.6	228.2	75.1	7,925.8	
PCB処理量(t)		19.7	165.7	181.9	236.5	206.0	272.8	295.8	278.0	195.9	168.9	149.8	133.7	100.3	75.7	34.6	2,515.3	

図-2 中間処理実績等



(3) エリア間移動による効率的な処理の推進

令和2年7月末時点でのエリア間移動処理の実績及び今後の計画は(表-3)のとおりです。特殊コンデンサは、当初、最大見込み枠として北海道PCB処理事業所、豊田PCB処理事業所エリアから各500台を計画していましたが、現地処理の進展に伴い、現時点でエリア間移動処理が見込まれる北海道エリアから70台、豊田エリアから123台に計画を見直し、両事業所と連携をしながら令和2年度までの処理を進めます。

表-3 エリア間移動処理の実績及び今後の計画

(処理台数)

区分	分類		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度 ^{*3}	合計
トランス類	新幹線車載トランス (豊田エリアから)	計画	10	8	6	6	0	0	30
		実績	10	8	6	6	0	0	30
コンデンサ類	特殊コンデンサ ^{*1} (北海道エリアから)	計画	0	0	70	0	0	0	70
		実績	0	0	70	0	0	0	70
	特殊コンデンサ ^{*1} (豊田エリアから)	計画	9	70	37	4	1	2	123
		実績	9	70	37	4	1	0	121
PPコンデンサ ^{*2} (豊田事業所へ)	計画	296	2,368	2,033	290	0	0	4,987	
	実績	296	2,368	2,033	274	16	0	4,987	

*1 特殊コンデンサ: 内部素子が炭化しているコンデンサ等

*2 PPコンデンサ: ポリプロピレン製の素子等を使用したコンデンサ等

*3 令和2年度については、7月までの実績